家 畜 衛 生

農業構造の改善に伴う畜産生産地の造成、多頭羽飼育等畜産の形態がめまぐるしく変っているとき、畜産農家の所得増大のかげには、県下 28 ヵ所（本所 24 ヵ所支所４ヵ所）の家畜保健衛生所の懸命の努力があることを忘れてはならないと思います。防疫に、診療に、衛生指導に、あるいは人工授精など、年を逐って増加する事業量に、日曜、祭日を返上するうえ、更に夜間に至るまで涙ぐましい労苦を払う家畜保健衛生所員の活躍は、畜産振興に絶対的な貢献をしていると言えましょう。

岡山県には最近家畜の急性伝染病の発生がみられなかったのですが、昨年の暮、県南部に豚コレラの発生をみたことは誠に残念なことでありました。

つぎに家畜衛生の事業別に記述して昭和36年を回顧してみたいと思います。

１、家畜防疫

（１）豚コレラ

昭和 35 年 12 月上旬倉敷市水島地域に豚コレラが発生しているとの情報に接し、調査しましたところ豚コレラと決定し、直ちに移動禁止を告示しました。同時に豚コレラ防疫対策要綱を設け、防疫本部を畜産課に、防疫支部を農林事務所におき、緊急に予防注射を行なうために予防注射班を、また発生豚の殺処分を行なうために殺処分班を現地に派遣して本病防あつに努めました。然し豚商人等によりビイルスは相当広範囲にひろがっていましたので逐次発生をみましたが、その状況は別表のとおりでありました。

昭和36年は年間２回予防注射を実施することにしました。春期の注射済豚には緑色の耳標を、秋期の注射済豚には赤色の耳標を装着することにし、県下全頭数に予防注射を実施したのであります。注射手数料も本年度より注射が受けやすいように大豚90円、中豚 60 円、仔豚 30 円と値下げしました。

６月以降は発生がみられませんでしたので９月 29 日付鶏等の移動禁止を解除しました。

（２）ブルセラ病

乳牛のブルセラ病検査をしていますが、陽性頭数が増加し、昨年 19 頭が本年は 35 頭になっており、この原因については調査中です。

（３）ひな白痢

種鶏羽数の増加により逐年増加し、前年 361.069 羽で、本年は未だ検査が完了していませんが 40 万羽を突破するようです。発生率は毎年 0.5%位低率を示していますが、無病を目標にするために、種鶏業者が自から60日令及び産卵開始前の２回に亘り自営検査をされることが望ましいと思います。

（４）牛の流行性感冒

隣県におきましては昭和 24 年 25 年本病の発生をみており、本県でも発生が予想されましたので、乳用牛、種雄牛を主体に７月から９月に亘って 10,434 頭実施しました。しかし発生をみなかったことは幸いと存じます。来年も本年と同様に予防注射を行なうことが必要と思われます。

（５）流行性脳炎

豚の飼育頭数の増加に伴って、最近死流産（黒仔）が多く、これの主な原因については流行性脳炎ビイルスによるものが多いので、繁殖豚で夏を初めて迎えるものに対して、本病の予防注射を７月に 675 頭実施しました。来年度は高力価の予防液を使用して養豚業者の損害を少なくし、養豚振興に寄与するよう努めたいと存じます。

（６）家畜寄生虫

（イ）内部寄生虫

内部寄生虫のなかで最も被害の多い肝蛭のみの検査を行なっています。糞便検査によりまして診断を行いますが寄生率は15.8%で濃染地帯は60%以上を示しています。本年は中間宿主であるヒメモロアラガイの殺減試験のためＰ・Ｃ・Ｐの散布を行いまし

た。

（ロ）外部寄生虫

放牧地帯の「ダニ」の媒介による小型ピロプラズマ病の発病は、毎年増加の一途を辿っていますので、放牧牛に対してもＢ・Ｈ・Ｃの散布を行い、「ダニ」の駆除を実施しています。「ダニ」の駆除については、自主的に且効率的に継続して実施されるよう指導してゆく方針であります。

２、一般衛生対策

（１）繁殖障害及び栄養障害防除事業

この事業は昭和 32 年より実施していますが、本年は新見市、阿哲郡の和牛を重点的に行ないました。今後は障害多発地帯を重点的に行なう予定です。

（２）鶏のロイコチトゾン病調査研究

養鶏家の脅威となっています鶏のロイコチトゾン病について岡山大学、養鶏試験場、畜産課の三者で調査、研究をするために研究普及会をつくりました。調査、研究の主なるものは次のとおりです。

（イ）発生調査

（ロ）ニワトリヌカカの吸血と時間的関係

（ハ）ニワトリヌカカの殺虫忌避試験

（ニ）ロイコチトゾン病の治療試験

（ホ）ニワトリヌカカの飛翔高度調査

（ヘ）ニワトリヌカカの消長関係調査

（３）トキソプラズマ病調査

この病気は人畜共通の伝染病で、県内の調査を皮内反応試験で行ないましたところ 10%の陽性豚を発見しました。今後も益々この調査をひろげ本病予防の万全を期したいと思います。

市町村別豚コレラ患畜発生調査表

区分	発生頭数	内訳 鑑定殺	殺	死亡	計	備考
岡山市	18	—	17	1	18	昭和35年12月7日倉敷市水島に初発 105頭発生 昭和36年5月29日笠岡市由笠殿川町に初発7頭発生す
倉敷市	24	2	19	3	24	
児島市	13	—	12	1	13	
総社市	22	—	21	1	22	
玉島市	5	—	5	—	5	
笠岡市	8	—	5	3	8	
井原市	1	—	—	1	1	
玉野市	1	—	1	—	1	
勝山町	12	—	8	4	12	
久世町	2	—	—	2	2	
柵原町	3	—	—	3	3	
寄島町	1	—	—	1	1	
賀陽町	2	—	1	1	2	
計	112	2	89	21	112	